

年間第2主日の説教

金 大烈 神父 2011年1月16日(日)

《“子羊” —勝利・^{あがな}贖い・解放—》

主の平和。(主の平和)

皆様、信者ではない人から「イエス様は何故この世に来られたのですか？」と尋ねられたらどのように答えますか。私たちは当然の様に「人間の救いの為に」と言いますよね。では“救い”とはどういう事でしょうか。少し神学的に考えてみましょう。イエス様は救い主としてこの世に来られました。どのようにイエス様は救い主になったのでしょうか。私たちは皆、イエス様は“十字架の道を歩いて、救い主になった”と信じています。それをもっと具体的に考えてみましょう。十字架の道を何故、歩んだのでしょうか。このように答えて下さい。“^{あがな}贖い”の為です。“贖い”の意味は何でしょうか。私たちが犯してきた全ての罪、その罪によって閉じてしまった色々な可能性、それをまた開く為に、神様が自分のひとり息子を遣わされるくらい、この人間を愛されたから、その人間が犯した罪の贖いの為にイエス様は来られたわけです。

次のような作り話が伝わっています。神様と人間一人ひとは、“紐”によってつながっているのだそうです。しかし、人間が罪を犯せばその紐が切れてしまうそうです。ですが、人間を愛する神様、“神様を愛する人間”ではなくて“人間を愛する神様”はもどかしい心で、罪によって切れてしまった紐をつなぐのだそうです。ですから、紐は人間の罪によって切れ、また神様によってつながれたりしながら結び目の数を増していきます。神様と人間の間にはその結び目がたくさんあります。その結び目がたくさんあると、その紐、いわゆる神様と人間との距離は確実に短くなります。

結構意味深い物語です。「私は罪無しにこの世を過ごせます」という人がいるかもしれませんが。神様は自分の愛する息子さえ使わされた事には訳があります。人間は罪を犯しながら成長します。罪を犯さなかったら真の傷みについて分かりません。それはわざわざ罪を犯すということではなく、仕方無しに罪を犯しながら生きるのが私たちだという事です。その“罪”と人間に向いている“神様の愛”、ですから、使徒パウロは「罪が多いところに恵も豊かになります」と言われました。どういうことかと説明しますと、罪を犯して「本当に悪かった」「これは私を下ろす事だ」「私を破壊する事だ」「何の利益も私には無い」という悟りと共に悔い改めが出来ます。そして、だんだん「私はこの様に“まずい”者なのですが、あなたに近づいても良いのでしょうか」という心を持って、神様に近づいて行くのが信仰の道です。ですから、その結び目、傷の跡によって、私たちはもっと神様と近い距離を保つ事が出来るのかも知れません。

皆様、ラテン語に“恵まれた罪よ”という言葉があります。これは聖人アウグスティヌスがおっしゃった言葉ですが、何故、アウグスティヌスは“恵まれた罪よ”と言う事が出来たのでしょうか。それはご自分の人生にも関わっているのですが、「振り返ってみると、私は本当に汚い世界で、どれ

程み旨に逆らってここまで来たのか。その中で神様は真の事を見せて下さった」という告白ではないかと思います。

皆様、今日、『神の子羊』、“子羊”という言葉が現れました。洗礼者ヨハネです。洗礼者ヨハネは初めてイエス様をご覧になった時、何とおっしゃいましたか。「見よ、世の罪を取り除く、神の子羊だ」。この言葉はミサの中で使われています。ご聖体拝領する前です。「神の子羊、世の罪を除きたもう主よ、我らを憐れみたまえ」と3回繰り返します。

“子羊”が持っている聖書学的な意味は三つあります。一つはサタン、悪魔を打ち破る意味を持っています。実際にヨハネの黙示録 12 章 11 節にも、神様に従う群れと羊の犠牲によって、悪魔が敗れたという内容があります。ですから、昔からイスラエル人が“羊”という単語を思い浮かべる時、悪魔と悪魔を破るメシアの意味を持っています。二番目は先ほど申し上げた“贖い”“償い”の意味を持ちます。三番目は何でしょうか。“解放”です。“罪からの解放”を意味します。色々な罪に縛られている私たちが、その縛りから、その束縛から解放される可能性を与えるのが、この“子羊”という言葉です。ですから、私たちがご聖体をいただく前に、一番大事な時間の前に告白する言葉、「神の子羊、世の罪を除きたもう主よ、われらの罪を憐れみたまえ」と拝領の前に唱え歌うのは、このような深い意味があることを皆様に分かっていたいただきたいと思います。そしてそれに続き、司祭は「神の子羊の食卓に招かれた者は幸い」と結びます。

今日の福音（ヨハネ 1・29-34）をとおして、私たちが考えなければならない事は、「私たちは生きても、死んでも、イエス様と共に生きる、永遠の命を迎える」という強い希望が必要ではないかと思えます。

今日はもう一つ、関係ない話を申し上げます。クリスマス後、すぐに私たちは四旬節の準備をしなければなりません。今年の四旬節は3月9日からです。四旬節の迎えるにあたって、皆様をお願いしたい事があります。もし皆様が神様の前に立つ前にこれはやり直したいというところをちょっと考えて見て下さい。今まで「これは“自分”ではなかったら良かったのに」と思うような、自分の嫌いなところがあると思えます。そして自分でも気づかずにいる、直して欲しいようなところも持っていると思えます。全ての人間にあります。もちろん、褒められたいところもたくさん持っているでしょう。私たちが解決しなければならない事は、私たちが神様の前に呼びかけられる前に解決しなければなりません。解決が出来なくても、「これを解決しよう」とする心が、自分に対して有るか無いかではないかと思えます。ですから、誰にも見せる必要はありませんので、1人で静かな時間を作り、ご自分のことをよく振り返ってみて、「この面は、やり直さなければならなかったが、一生自分が持っている癖である。否定的な面である」というようなことを一つ一つ選んで、10個位挙げてみましょう。真剣に挙げてみて下さい、少なすぎますか。(笑い)それが終わったら、「これは私が活かして良かった」という自分だけが持っている素晴らしさ、それも10個位選んで下さい。その10個を必ず考えて書いてみて下さい。多すぎますか。(笑い)そして、それが完成したら、ろうそくの前で跪いて祈りまし

よう。

「イエス様、これが、自分が持っている私の全てです。この中で、悪いことは必ずあなたの慈しみによって癒されたいです。良いことは出来るだけ活かして、もっと自分の人生を幸せになるよう努めます」という心を持って祈って下さい。

ありがとうございました。